

四季の歌

～季節を詠む 時流を詠む～

美野里短歌クラブ

念じおり初めがあれば終りあり人の世狂わす新型コロナ
雑草のなかに芽を出すふきのとう春のいぶきをしばらく探す
朝もやに霞む梅園色淡く見えたる花のなかつつましき
こもかむり寒さに耐えて大輪のぼたん見事な友の庭先
高校のマーチングバンド観ておれば新型コロナ忘れていたり

小川短歌会

コロナにて籠る子らへの読みきかせを動画配信・小美玉社協は
連綿体の姑の変体かなの歌われには読めず書けども書けず
簡単な漢字でさえもつい忘れ広辞苑めくる八十路となりて
持久走のわが子写さんとわれ先にスマホかぎせる母らも必至

玉里短歌会

山寺の廃仏毀釈の地蔵さま手のひらの上桜散りいる
梅雨の宵オンザロックでくつろげる我をも襲うかコロナウイルス
朝まだき薄明りの中目を閉じて中島みゆきの「川風」を聴く
春雨のサラダに添えるナスタチューム目も楽しめます私の料理
老いたりとしみじみ思う悔しくもねらった蠅を打ち損ねた時

寄稿

友達と嬉しい電話有難たい
霧雨に花も似合うか紫陽花に色とろどりの竹原神社

岩崎 健次郎
宇都宮 和子
山口 和代
碓谷 清香
白根沢 清香

中根 良子
石田 はる江
根本 智恵子
幡谷 啓子

高田 久子
石橋 吉生
鶴町 文男
齋藤 かつみ
正木 敦子

藤田 久子
深作 茂登子

みづつみ俳句会

白靴で踏み出す朝の空の青
風の道四方に香りて山ユリ花
法要の背ナにやさしき青葉風
合歓咲くや青田の風に水の音
朝顔の蔓をやさしく巻きなおし

みのり俳句会

五月雨や松露の宿る紫庭かな
一生は長し短し明易き
頑張りも時に良し悪しほととぎす
青田風静かに吹いて散歩人
久慈川に耶馬溪望むほたるぶくろ

樺の会

精いっぱい今を咲き切る凌霄花
茄子の花を数える朝の笑顔かな
万緑を写して重き湖面かな
姉の忌やシャネル五番の一、二滴
花茄子や身に鎧なき一人つ子

くるみ俳句会

心地好き風は青葉の中を抜け
池端に優しく揺れて濃紫陽花
古民家の明け放たれし夏座敷
谷若葉祠静けき時流る
池端の今年名残りの花菖蒲

玉里俳句会

一輪挿しは母の手捻り螢草
くり返す激甚災害梅雨出水
子供等とテレビ電話や夏座敷
白妙のなまめく揺らぎ姫女苑
マメ助の散歩いやがる梅雨の入り

小美玉川柳会

カタツムリどこに行つたか今豪雨
君と会うスマホの中で初対面
コロナ来て右往左往の日和かな
春はまだ小指に残る知覚過敏
離れても忘れられない城ヶ島

長島 美奈子
茅場 久子
榎本 喜代子
長島 久美子

塚田 文江
友水 清江
井坂 あさ子
坂水 清江

井坂 あさ子
岡島 進江
石田 敏江
岡島 小夜子

小原 工ミ
信田 菊女
島田 篁村
城垣 睦子
杉山 照子

野口 初江
矢口 友子
斉藤 富子
松田 通喜子
菅谷 さい子

比川 白水
枝川 照子
金子 史子
岡島 進